

上部消化管内視鏡 検査説明書（午前）

【検査前日】

食事は夜 9 時までにおすませください。検査前日の飲水制限はありません。

【検査当日】

朝は絶食です。水分は検査前 2 時間まで適度にとつてかまいませんが、水かお茶にしてください。

サプリメントや薬は服用しないでください。ただし血圧、心臓、喘息の薬は食事に関係なく朝 7 時までにお飲みください。

当日は口紅をしないでください。

【検査の実際】 食道、胃、十二指腸を上部消化管といい、これらの場所に病気があるかどうかを調べるために、鼻あるいは口から内視鏡を挿入します。内視鏡の太さは直径 6mm 弱で、鼻からの挿入では、口から入れるよりも嘔吐反射が少なく、会話することもできます。

麻酔の方法は、**経鼻の場合**、まず左右の鼻の中を広げるための薬を付けたあとに、胃の中をきれいにする水を飲みます。次に検査をする鼻を選び、麻酔のゼリーを塗った柔らかいチューブを挿入して鼻腔内麻酔をします。**経口では**、まず胃の中をきれいにする水を飲みます。次に麻酔のゼリーをのどに 1 分程ためてから飲み込みます。数分後に 2 回目のゼリーを飲み込んでから検査を始めます。

検査はベッドで左向きに寝た状態で行い、時間は 10 分程です。診断のために色素をまいたり、生検（組織を採取）することがあります。鼻の奥が狭くて硬くて麻酔のチューブが入らない、チューブは入るが痛みが強いなど、鼻からの検査が困難な場合は口から入れる方法に切り替えることがあります。

【偶発症について】 麻酔薬によるアレルギー（ショック・呼吸困難・血圧低下など）は、内視鏡学会調査で約 17000 検査に 1 件（0.0059%）、生検など内視鏡操作による出血・穿孔などは約 14400 検査に 1 件（0.007%）と報告されています。経鼻内視鏡に特有なものとしては、鼻痛や鼻出血などがあり、まれに頭痛や歯痛がみられます。鼻出血のほとんどは軽度で、数分で止まります。偶発症は起こらないように細心の注意をはらって検査をしますが、万が一生じた場合には状況に応じ適切に対処致します。

【血液をサラサラにする薬について】 抗血小板薬、抗凝固薬や一部のサプリメントは血液をサラサラにする効果があります。服用中の方は血が止まりづらいため、生検はせずに観察のみの検査になります。これらの薬を休薬する場合は脳梗塞や心筋梗塞など血栓、塞栓を起こす危険があるので、自己判断せずに薬を処方した医師に休薬が可能か必ず相談してください。

【その他】 服用中の薬がよくわからないときは、薬の現物や薬剤情報用紙をご持参ください。また、がん検診での内視鏡で生検した場合は保険診療となり、追加で費用がかかることをご了承ください。

以上、ご理解、ご納得をいただき、検査を受けることに同意されましたら、別紙の同意書にご署名の上、当日ご持参ください。なお、疑問点がございましたら、おたずねください。